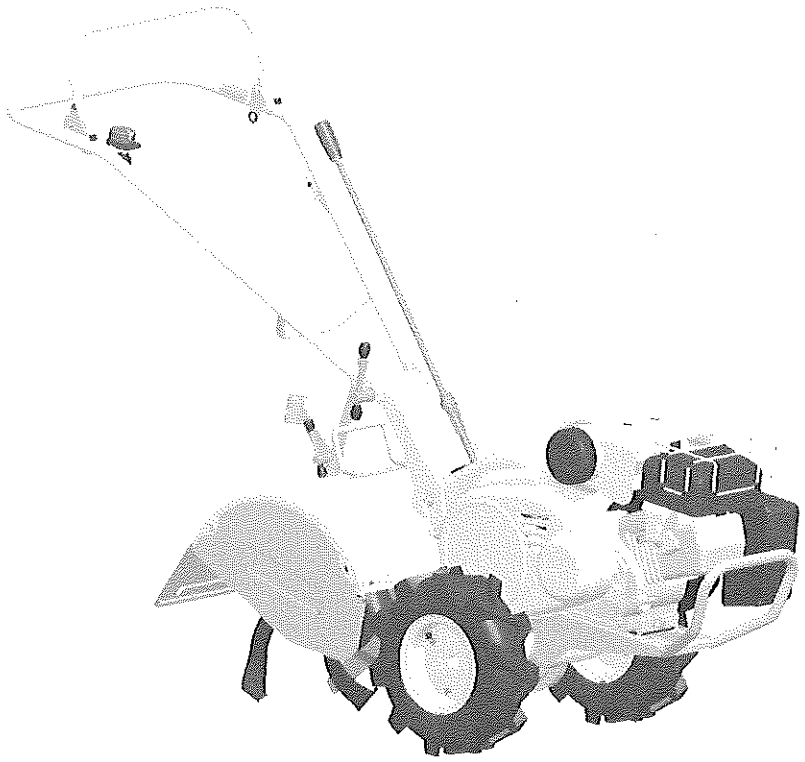
KIORITZ

自走式ミニ耕耘機

KR41G

取 扱 説 明 書



0021-86005

- 取扱説明書本文中にでてくる重要危険部品は、製品を使用する前に注意深くお読みいただき、十分理解してください。
- 本製品ご購入の際には、販売店より安全のための使用方法についての説明をお受けください。
- 取扱説明書はいつでもごらんになれるよう、品質保証書とともに大切に保管してください。

※快適作業を維持するため、製品の定期点検を励行しましょう。

目　　次

項　目　　頁

《はじめに》 1
《重要なお知らせ》 1
《本製品の規制について》 1
《保証・契約書・免責事項》 1
《定義とシンボルマークについて》 2
《安全に作業をするために》 2
《各部の名称》 6
《各部のはたらき》 7
《方向について…》 5
《機械を他人に貸すときは…》 7
《上手な運転のしかた》 7
運転前の始業点検 7
エンジン始動・停止のしかた 8
走行・旋回・変速・停止のしかた 11
自動車への積み降ろし 13
《上手な作業のしかた》 14
耕うん作業のしかた 14
固い圃場での耕うん作業 14
耕うん深さの変えかた 15
作業や体格に合わせたハンドル高さの調整 15
上手な作業の例 16
《長期保管のしかた》 17
《各部オイルの点検・交換・注油のしかた》 18
ミッションオイルの点検・交換・注油 18
エンジンオイルの点検・交換・注油 19
各部への注油のしかた 19
《各部の点検・整備・調整のしかた》 20
エアクリーナの清掃のしかた 20
タイヤ空気圧の調整のしかた 21
点火プラグの点検・調整のしかた 21
《そのほかの点検》 21
各部ワイヤ・ベルト調整のしかた 22
耕うん爪の点検と交換のしかた 23
らくらくアンカー交換の目安 23
《消耗品明細》 24
《工具袋・同梱品明細》 24
《仕　様》 25
《定期自主点検表》 26
《自己診断表》 27
《エンジンの不調とその処理方法》 28

《はじめに》

このたびは、本製品をお買い上げ頂きまして誠にありがとうございました。

この取扱説明書は本製品を常に最良の状態に保ち、安全な作業をしていただくために、正しい取扱方法と簡単なお手入れ方法について説明してあります。

ご使用の前に必ずこの取扱説明書を良くお読みいただき、安全な運転作業と正しい取扱方法を十分理解し、安全で能率的な作業にお役立て下さい。

又、お読みになった後はいつでも取り出してご覧になれるよう大切に保管し、本製品を末永くご使用頂けますようご活用下さい。

《重要なお知らせ》

a) 性能・耐久性向上及びその他諸事情による部品等の変更で、お手元の製品の仕様と本書の内容が一部一致しない場合があります。

b) 本書の内容の一部又は全部を無断で複写複製(コピー)する事は、法律で定められた場合を除き、著作権の侵害となりますので予めご注意下さい。

c) 本書では説明部位が具体的に理解できるよう、写真、イラストを用いています。説明部位以外は省略されて表示されている場合があります。

d) 本書は日本語を母国語としない方のご使用は対象としていません。

《本製品の規制について》

本製品は農業用機械として開発しておりますので、これ以外の用途(レンタル等、作業者が特定されないような使われ方)では使用しないで下さい。この場合には保証の対象外となる場合がありますのでご注意下さい。

《保証・契約書・免責事項》

・本書とは別に本製品には品質保証書が添付されています。必ず品質保証書裏面の保証規約を良く読んで理解しておいて下さい。

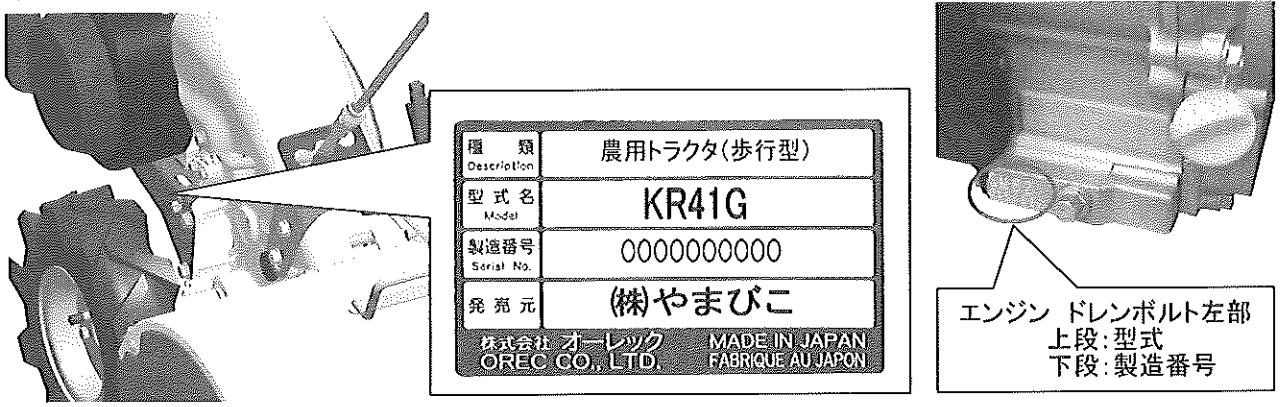
・本製品の保証期間は、新品購入から**1ケ年、又は使用開始後50時間**(請負業務用については**6ケ月**間、もしくは**使用開始後50時間**)の内どちらか早い時点で到達した方となっています。

・全ての注意事項を予測する事は不可能です。製品を使用する際には作業者側も安全への配慮が必要です。

・本書を読んでも判らない場合には勝手な操作はせず、お買い上げ頂いた販売店にご相談下さい。

・製品を安全に効率よくご使用し続けて頂くためには定期的な点検・整備が不可欠です。「定期自主点検表」及び「年次点検表」に記載のある定期的な点検・整備を必ず最低**毎年1回**はお買い上げ頂いた販売店又は当社に依頼しましょう(有料)。これらの点検・整備を行わなかった事及び仕様を越えた使用・改造等本書に従わなかった事に起因する故障・事故に関しては保証の対象外となります。

・製品についてのご不審な点及びサービス等に関するご質問は、お買い上げ頂いた販売店又は当社までご相談下さい。その際、**『商品型式と製造番号・搭載エンジンの型式名(エンジン本体に刻印又は貼付されています。)』**を併せてご連絡下さい。



◎この製品の補修用部品の供給年限(期間)は、**製造打ち切り後9年**と致します。但し、供給年限内であっても、特殊部品につきましては納期等についてご相談させていただく場合もあります。

《定義とシンボルマークについて》

本書では、危険度の高さ(又は事故の大きさ)に従って、次のような定義とシンボルマークが使用されています。以下のシンボルマークがもつ意味を十分に理解し、その内容に従って下さい。

シンボルマーク	定　　義
⚠ 危険	回避しないと、死亡または重傷を招く確率の高い危険な状態を示します。
⚠ 警告	回避しないと、死亡または重傷を招く可能性がある潜在的な危険状態を示します。
⚠ 注意	回避しないと、軽傷または中程度の傷害を招く可能性がある潜在的な危険状態を示します。
注意	回避しないと物的損害を引き起こす可能性がある潜在的な危険状態を示します。
参考；	操作、保守において知っておくと便利な製品の性能、誤りやすいミスに関する事項を示します。

《安全に作業をするために》 …重要危険項目…

（1）警告表示マーク

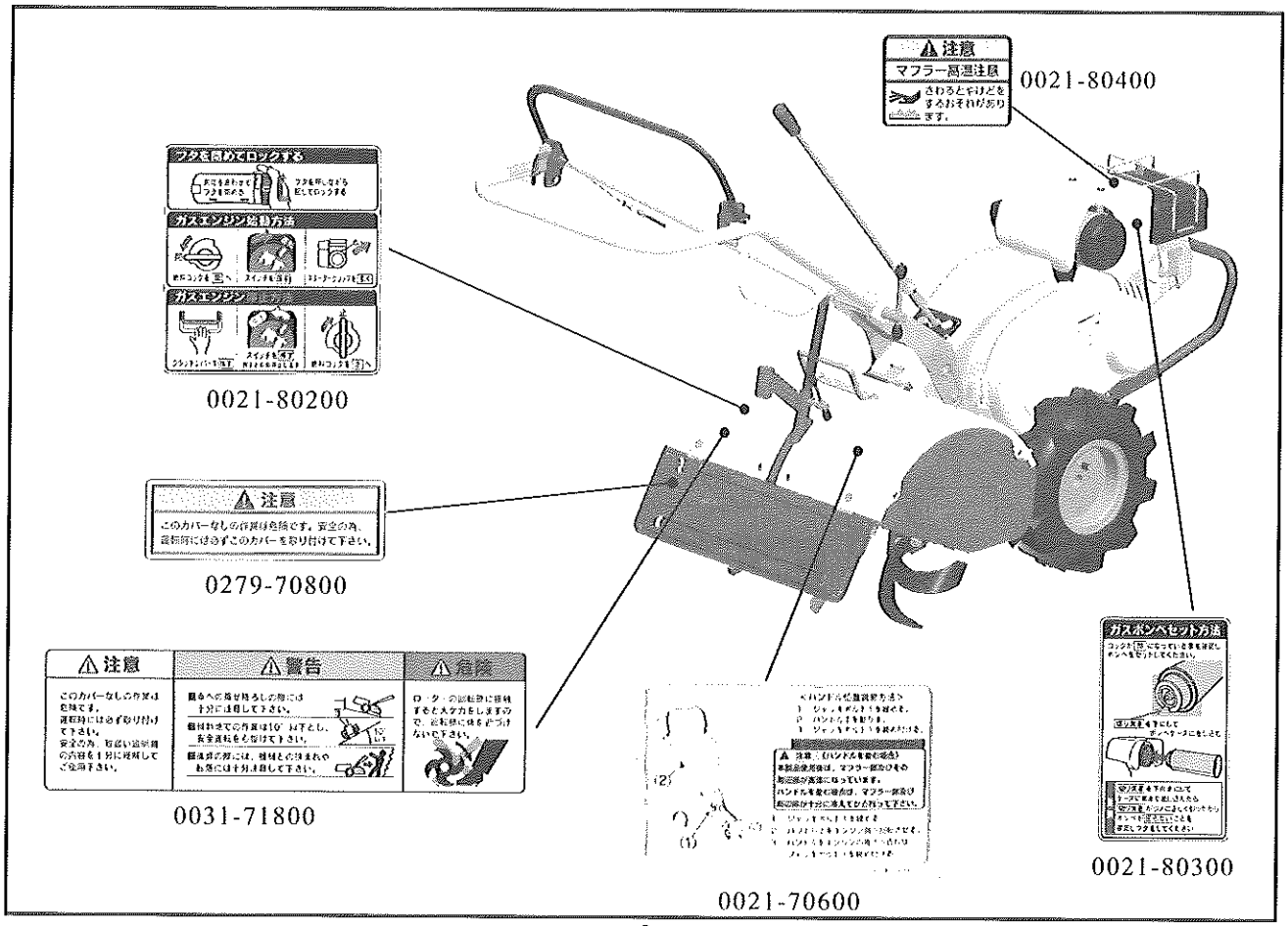
・以下の警告表示マークは本項目内における重要危険事項の中から特に重要なものとして本体に貼付されています。ご使用の前に必ずお読みいただき、内容を十分理解して必ず守って下さい。

●…警告表示マークが見えにくくなった場合には、必ず同じものを購入し、同じ場所へ貼り付けておいて下さい。

〈24 頁…「消耗品明細」参照〉

⚠ 警告

本製品はLPガスを燃料としており、作業中はもちろん本製品のそばでのくわえたばこや焚き火等は引火の危険がありますので絶対にしないで下さい。



（２） 作業前の注意

・本機の運転に際しては、使用上の注意事項を十分理解し、安全運転を徹底して下さい。
・所有者以外の人は使用しないで下さい。
・過労、病気、薬物の影響、その他の影響により正常な運転操作が出来ない時には作業を控えて下さい。又、酒気を帯びた人、妊婦、若年者、未熟練者も作業をしないで下さい。
・転落防止のため、川や崖に向かっての作業はしないで下さい。
・平坦部と傾斜部との境目（路肩）を走行する場合は、路肩崩れや転落の危険性があります。十分に安全な平坦地を走行して下さい。
・必ずタイヤセットピンが確実に取付けられているか確認して下さい。

⚠危険 排気ガスによる中毒防止のため、屋内ではエンジンを始動させないで下さい。

⚠警告 作業衣は長袖の上着に裾を絞った長ズボンを着用し、滑り止め(スパイク)のついた安全靴や帽子又は、ヘルメット、防護眼鏡、スネ当て等を必ず使用して下さい。

⚠警告 安全のためのカバー類はもとより、標準に装備されている部品を外しての運転は非常に危険です。安全のためこれらのカバー類、部品は必ず装着した状態で使用して下さい。

⚠警告 １０° を超える傾斜地での作業は危険です。安全作業のため、これらの勾配角度未満でご使用下さい。

⚠警告 傾斜地で主クラッチレバーを「切」位置にしたり、変速レバーを中立にすると本機が谷側へ滑り落ちる危険があります。傾斜地では、これらの操作をしないで下さい。

⚠警告 暗い時、視界が悪いときの使用は危険です。周囲の状況が十分に把握できない環境では使用しないで下さい。

注意 安全作業の妨げとなるような本機の改造(夜間作業用のライトの装着、ロータリカバーの切断等)は絶対にしないで下さい。これらの改造に起因する事故、及び不具合に関しては一切の責任を負いかねます。

（３） 燃料（カセットボンベ）交換時の注意

⚠警告 カセットボンベ交換中及び作業中は火気厳禁です。又、カセットボンベの向きに注意し、もしカセットボンベ内のガスが周囲に漏れた場合には直ちにカセットボンベを取り外し十分換気をして下さい。ガスへ引火し爆発する危険があります。

⚠注意 火傷や引火の危険があります。カセットボンベの交換はマフラの温度が十分さがってから行って下さい。

（４） 始動時の注意

・エンジンの回りや排気ガス方向には、燃えやすいものを近付けないで下さい。
・主クラッチレバーから手を放し、変速レバーは「中立」位置にした後始動して下さい。
・回りに人や動物や車両等がいない事を確認し、また周囲の安全を確認してから始動して下さい。

（５） 積み降ろし時の注意

〈13 頁…「自動車への積み降ろし」参照〉

・平坦で安全な場所を選び、搭載時に車が動き出さないようにエンジンを止め、タイヤ止めなどをし、確実に駐車をして下さい。
・２人で持ち上げて積み下ろしを行う場合はハンドルを折りたたみ、前方側はバンパーを後方側は運搬ハンドルをしっかりと持って行って下さい。

（６） 作業中の注意

・安全のため、余裕を持った運転を心掛け、急発進・急停止・急旋回はしないで下さい。

⚠注意 **特に固い圃場ではダッシング(ロータリ回転の反力により本機が前方もしくは後方に勢い良く飛び出すこと)の危険があります。らくらくアンカーは必ず装着し、浅く数回に分けて耕うん作業をする等、安全には十分に注意をして作業を行って下さい。**

⚠注意 **機械に挟まれたりしない様、周囲に子供や動物がいない事を確認して下さい。また崖や段差のある所からの転落等がない様、周囲の足場に注意して下さい。**

⚠警告 **回転部分は危険です。特にロータリカバー内は危険ですので、身体を近付けないで下さい。回転部分に絡みついた草、紐等を取り除く場合には必ずエンジンを停止した後に行って下さい。**

注意 **エンジン冷却風の吸込口、シリンダ付近の草詰まりはエンジンの焼付きや火災の原因になります。外側のみならず、内側もこまめに清掃して下さい。又、エアクリーナ内部の清掃も同時に行って下さい。**

・ベルトスリップによる異常な音・匂い・発熱は火災の原因です。その様な時はすぐにエンジンを停止して点検・修理して下さい。

注意 **変速する場合には必ず主クラッチレバーは一旦「切」位置にした後に行って下さい。作業をしながらの変速操作は故障、ダッシング等の原因となり非常に危険です。**

注意 **石や切り株・木の根等、危険物の多い場所では事前に異物は取り除き、障害物の位置を確認した後に作業を始めて下さい。**

・作業中、石・木株等に当たった時は直ちにエンジンを停止し、耕うん爪の欠けや曲がりの有無を調べて下さい。

⚠注意 **旋回時変速レバーは「移動」位置にして下さい。ロータリが回転したまま旋回すると回転する耕うん爪に巻き込まれ、大ケガを負う恐れがあります。**

⚠注意 **エンジン回転中及び停止直後排気マフラは高温になります。この時にマフラに手をかけると火傷を負う危険がありますので、絶対に手等を近付けないで下さい。**

（７） 作業終了後の注意

・本機より離れる時は、必ずエンジンを止めて下さい。

・安全のため、燃料コックは必ず閉めて下さい。

（８） 点検・整備時の注意

・機械の点検・調整・整備をする時は、必ずエンジンを停止して下さい。

注意 **品質及び性能維持のためには定期点検が不可欠です。始業・月次点検は所有者ご自身で、年次点検はお買い上げ頂いた販売店又は当社へご依頼下さい(有料)。定期点検を怠ったことによる事故・故障については責任を負いかねますのでご注意下さい。**

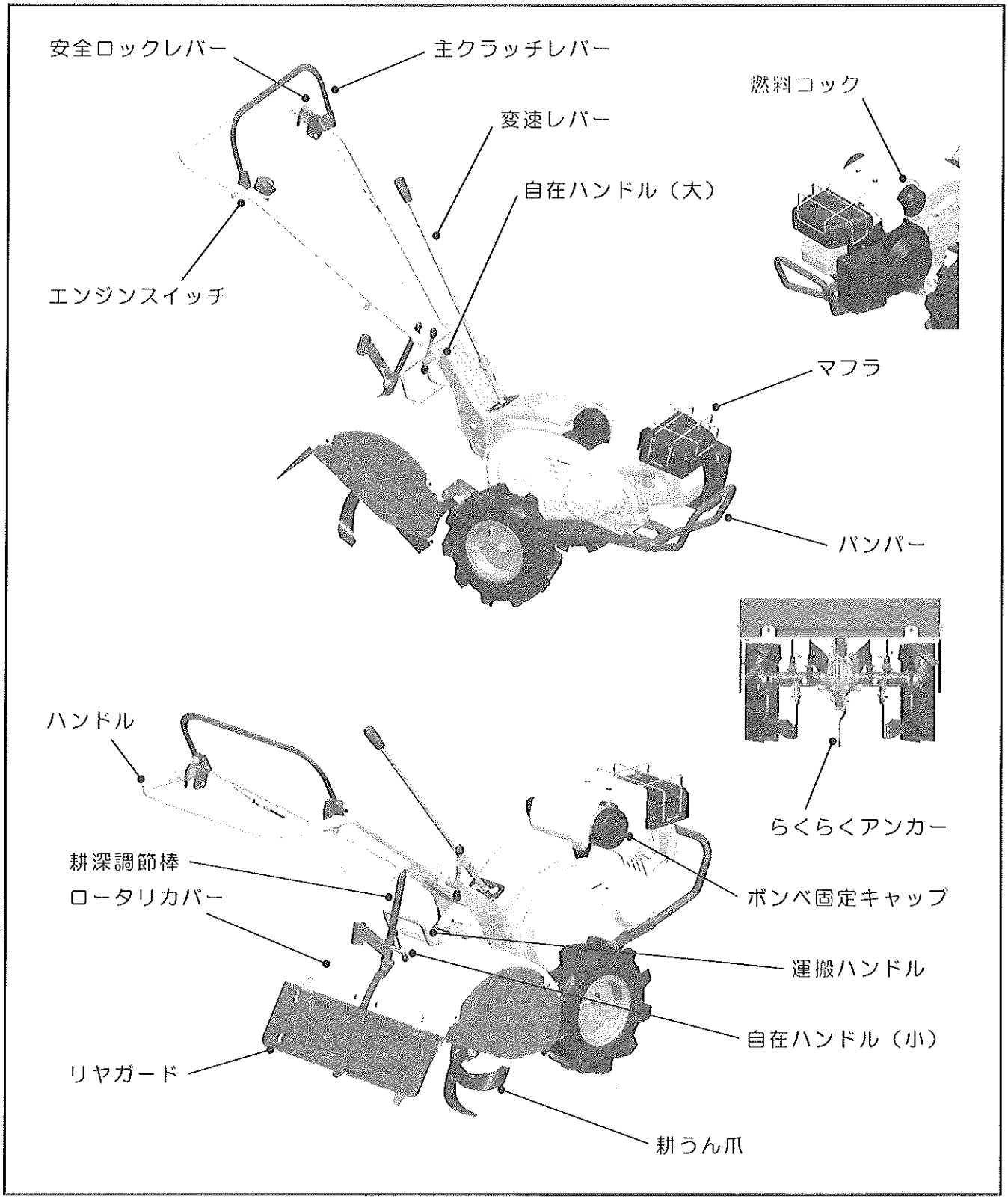
⚠警告 **ベルトやロータリ部の安全カバー、及び飛散防止用のカバー、フラッパ類の破損は危険です。作業中に異常を感じた箇所はそのままにせず、必ず作業を中断して点検、また作業終了後に再度点検し、必要な修理をしておいて下さい。**

・取り外した回転部のカバー類は、必ず元の位置に正しく取付けて下さい。

・爪取付ボルトは安全の為、爪交換の際には一緒に新品と交換して下さい。

⚠注意 点検・整備又はシートをかける場合には火傷や火災を防ぐため、エンジンの停止後マフラやエンジン本体の冷却状態を十分確認した上(エンジン停止後１０分以上)で行って下さい。

《各部の名称》



《各部のはたらき》

○主クラッチレバー

レバーを握りエンジンの回転を上げると「**入**」、レバーを放しエンジンの回転を下げると「**切**」となる遠心クラッチを採用しています。

○変速レバー

変速段数は**「作業」**、**「移動」**の２段変速で、**「作業」**位置ではロータリが回転し耕うん作業を行うことができます。

○らくらくアンカー

耕うん作業中のダッシングの発生を抑えます。作業中は必ず装着して下さい。

＊ダッシング：

ロータリの回転反力で本機が前方或いは後方に飛び出す現象で非常に危険です。

らくらくアンカーは常に取り付けて作業をし、摩耗したら交換して下さい。

○耕深調節棒

耕うん深さの調節を行います。

横についているネジ（自在ハンドル（小））を緩めて任意の高さに合わせて下さい。

◎耕深調節棒を「上」にする…深くなる

◎耕深調節棒を「下」にする…浅くなる

○自在ハンドル（大）

作業者の体格に合わせてハンドルの高さを調節できます。

自在ハンドル（大）を緩めて上下の調整をし、適当な高さで固定して下さい。固定する際はハンドル根元の菊座（ギザギザの山と谷）がきちんと噛み合う位置にし、隙間が出来ないように締めて下さい。

○エンジンスイッチ

エンジンの回転を「入(運転)」、「切(停止)」します。

スイッチを「入(運転)」にする場合は赤い部分を右に回し、黒い印を（運転）の位置にして下さい。スイッチを「切(停止)」にする場合は赤い部分を押すだけで「切(停止)」に戻ります。

○リヤガード

足が入り込むのを防ぎます。

耕うんの際は安全の為、必ず**リヤガードを下げた状態**で行ってください。

⚠警告

・リヤガードが上がった状態にするのは培土板装着時、耕うん爪の交換等整備時のみとし、それ以外は必ず下げた状態にしておいて下さい。リヤガードを上げて作業を行うと、手や足を耕うん爪に巻き込まれ、大ケガをする恐れがあります。

○耕うん爪

正転用の中耕爪です。摩耗したら全ての爪を新品に交換してください。部分的な交換はしないで下さい。

○ボンベ固定キャップ

燃料のカセットボンベを固定します。使用前にカセットボンベが必ずきちんと固定できているか確認して下さい。

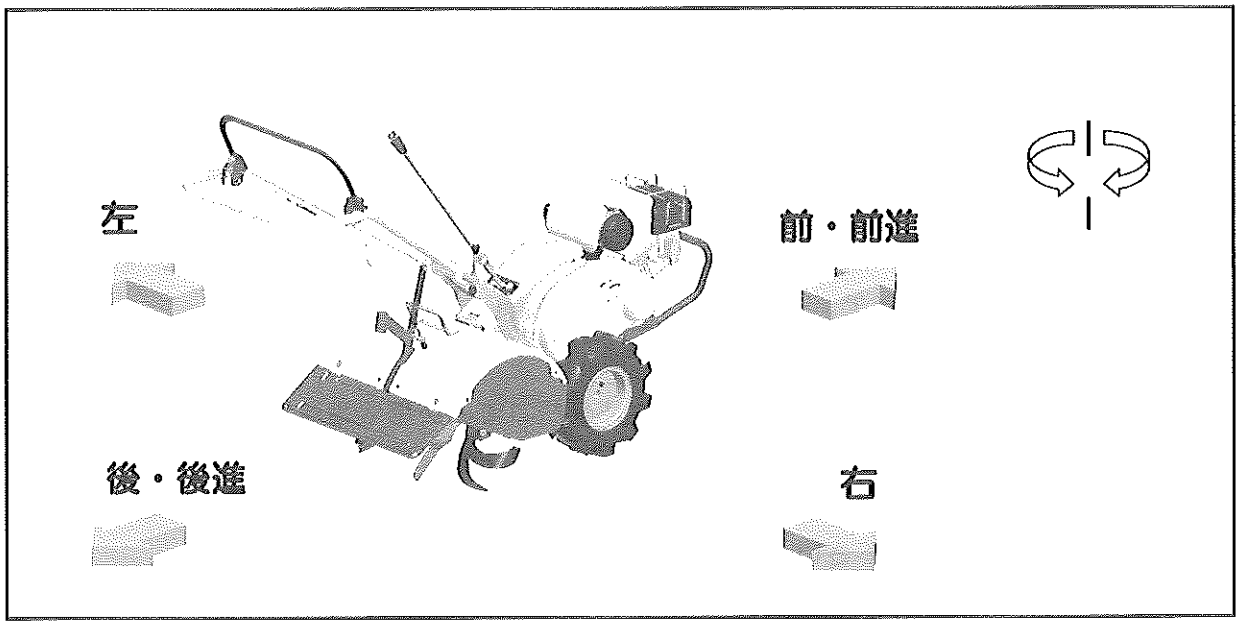
○運搬ハンドル

本機の積み下ろしの際には必ず２人以上で作業し、前側の人はバンパーを、後側の人は運搬ハンドルを持って抱えて下さい。一人での作業は危険です。

《方向について…》

本機の前後左右は、下図のように作業者から見た方向で表します。

本文中の、「前進」・「後進」についても、作業者から見た方向で表します。



《機械を他人に貸すときは…》

⚠ 警告

所有者以外の人には使用させないのが原則ですが、やむを得ず機械を他人に貸すときには、取扱い方法を説明し、「取扱説明書」をよく読んでもらい、取扱い方法や安全のポイントを十分理解してから作業をするように指導して下さい。

機械と一緒に「取扱説明書」も貸して上げて下さい。

親切心から機械を他人に貸して、借りた人が不慣れなために思わぬ事故を起こしたりするとせっかくの親切があだとなってしまいます。

《上手な運転のしかた》

運転前の始業点検

安全で快適な作業を行うために**「定期自主点検表」**〈26 頁参照〉に従って始業点検をおこない、異常箇所は直に整備をしてから作業を始めて下さい。

エンジンの始動・停止のしかた

・燃料には『**岩谷産業㈱イワタニカセットボンベ　容量２５０ｇ**』と表示のあるカセットこんろ用ボンベをお使い下さい。

・使用済みカセットボンベを廃棄する際はカセットボンベ内のガスを完全に使い切ってから各市町村の処理方法に従って下さい。またカセットボンベを火中に投じないで下さい。爆発する恐れがあります。

⚠危険

燃料のカセットボンベを取り扱うときはカセットボンベに記載してある注意事項に従って下さい。

●取り扱いは換気の良い場所で行い、締め切った室内でエンジンを始動及び暖機運転をしないで下さい。有害な排気ガスが室内に充満し、ガス中毒をおこす恐れがあります。

＊暖機運転：エンジン内のオイルを適切な温度まで上昇させ、エンジン各部にオイルを行き渡らせることで、エンジンへの負担を減らす作業のことです。

⚠警告

●LP ガスエンジンを搭載していますので、くわえタバコでの使用や電球むき出しの照明を近くで使用すると LPG ガスに引火する場合があり危険です。絶対に行わないで下さい。

●カセットボンベは本機に装着している・装着していないに拘らず、車内や炎天下など 40℃以上になる場所に放置しないで下さい。爆発の恐れがあります。

●エンジン始動前にガス漏れがないことを確認して下さい。

●運搬時、保管時、作業終了後はカセットボンベを必ず取り外して下さい。ガス漏れが起こる恐れがあります。

⚠注意

・エンジンの始動時は、主クラッチレバーおよび変速レバーの位置と周囲の安全を確認して下さい。

・エンジンの設定回転をむやみに調整しないで下さい。

・エンジン運転中や、停止後すぐ(約３～５分間)の熱い間はボンベ固定キャップを外したり、カセットボンベの交換をしないで下さい。

・カセットボンベ交換後はボンベ固定キャップを確実に取り付けて下さい。

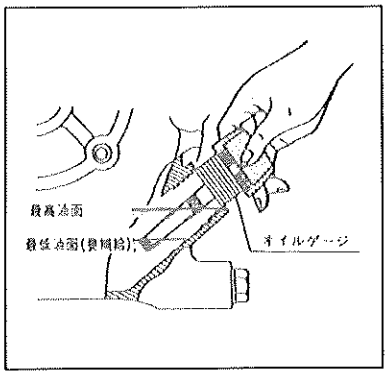
・エンジンオイルの点検はエンジン停止後、エンジンが冷えるのを待って火傷に十分注意して行って下さい。

注意

・本機には新品時に予めエンジンオイルが注油されています。補給するオイルの量はオイルゲージの目盛を参考にして下さい。

・本機に搭載しているエンジンは運転可能雰囲気温度が約１０℃～４０℃となっています。冬場など本機周囲の外気温が１０℃より低い条件ではエンジンの始動性が悪い場合があります。また、本機周囲の外気温が４０℃より高い条件では燃料のカセットボンベそのものに支障をきたし思わぬ事故の原因になる場合がありますので使用しないで下さい。

■エンジン始動のしかた



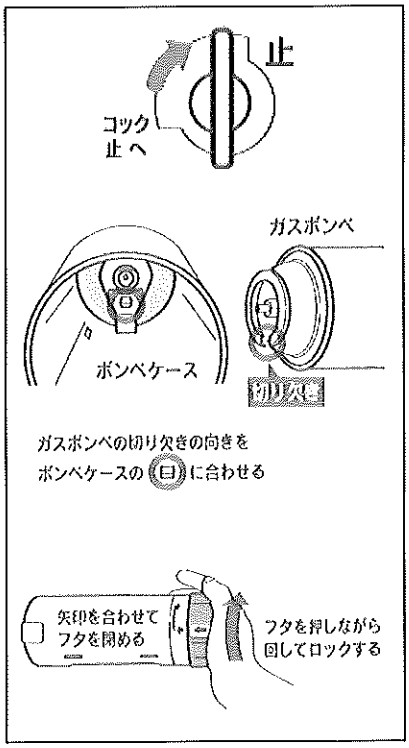
①エンジンオイルの量を確認して下さい。

◎給油栓がオイルゲージを兼用しています。
オイルゲージの上と下の目盛線の間にオイルがなければ上の目盛線までオイルが付くようにエンジンオイルを補給して下さい。

参考；エンジンは水平にして給油栓はねじ込まずに差し込んで点検して下さい。

・使用するエンジンオイルはＳＤ級以上の良質の新しいオイルを使用して下さい。

使用するエンジンオイル…ＳＡＥ３０，ＳＡＥ１０Ｗ－３０，又はＳＡＥ４０



■燃料の点検と補給

②燃料を確認して下さい。

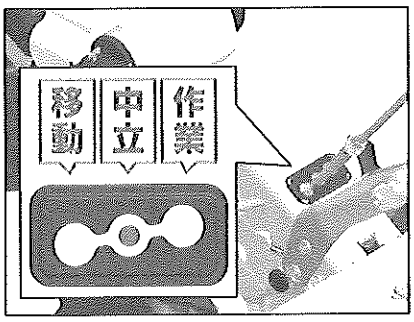
燃料はＬＰガスカセットボンベを使用して下さい。

・燃料は『**岩谷産業㈱イワタニカセットボンベ　容量２５０ｇ**』と表示のあるカセットこんろ用ボンベをお使い下さい。

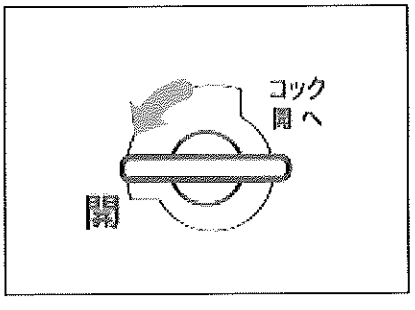
・+カセットボンベの取り付け・交換は必ずエンジンが停止した状態で燃料コックを「止」にして行って下さい。

・カセットボンベの切り欠きとボンベケースの突起の位置が合う様（カセットボンベの切り欠きが下向き）にカセットボンベを入れて下さい。

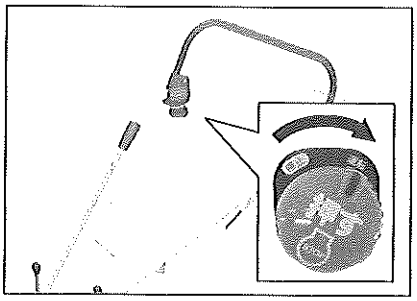
・カセットボンベ交換後はボンベ固定キャップを確実に取り付けて下さい。



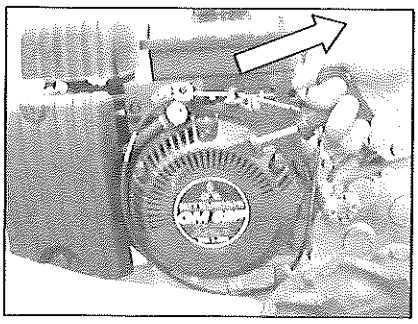
③変速レバーを「中立」位置にし、主クラッチレバーから手を放して下さい。



④燃料コックを「開(ON)」位置にして下さい。



⑤エンジンスイッチを右に回し「入(運転)」位置にして下さい。

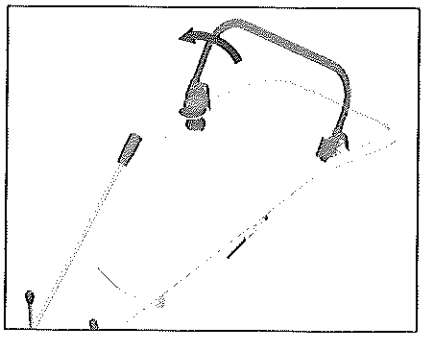


⑥スタータノブを握り、ゆっくりと引いて圧縮を感じる位置から一旦戻した後、勢いよく引っ張って下さい。
エンジンの始動後は、スタータノブは元の位置にゆっくりと戻して下さい。

⑦エンジン始動後はしばらく(５分程度)暖機運転を行って下さい。暖機運転を行うことにより、エンジンの各部にオイルを行き渡らせ、エンジンの寿命をのばします。

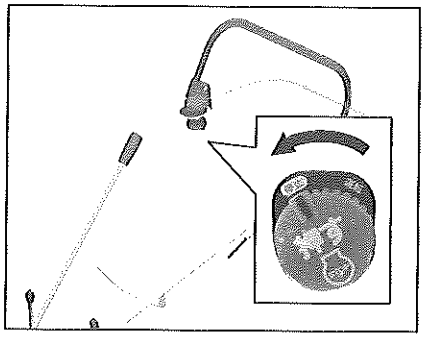
注意

・新製品購入後、最初の３～４時間は、慣らし運転期間として、過負荷をかけない様に控えめな運転を心がけて下さい。



■エンジン停止のしかた

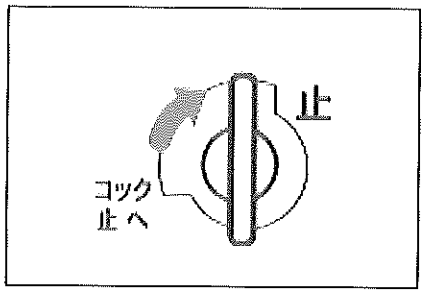
⑧主クラッチレバーから手を放して下さい。



⑨エンジンの回転数が下がったらエンジンスイッチを押して「切(停止)」位置にしてエンジンを停止して下さい。

参考；

スイッチを**「停止(OFF)」**にする際は赤い部分を押すだけで停止側に戻ります。



⑩最後に燃料コックを「止(ＯＦＦ)」位置にして下さい。

走行・旋回・変速・停止のしかた

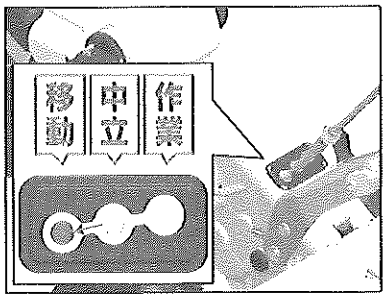
⚠警告

■所有者以外の人には使用させないで下さい。

■走行するときは、周囲の安全を確かめてから発進して下さい。

・側溝や路肩の走行は本機の重みで地盤が崩れる恐れがあります。地盤が軟弱な場所での使用は十分に注意して下さい。

・１０°以上の傾斜地では、転倒・滑落の危険があります。このような場所での使用はしないで下さい。



■走行のしかた

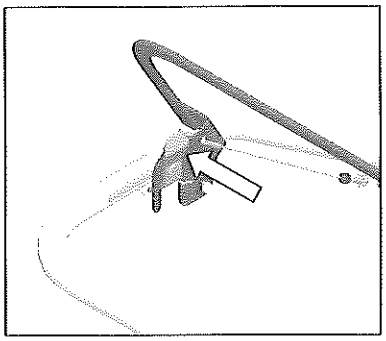
①エンジンを始動させて下さい。

〈9 頁…「エンジン始動のしかた」参照〉

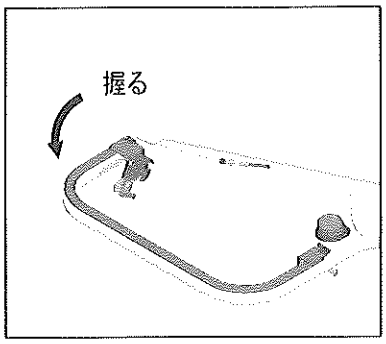
②変速レバーを**「移動」**の所要の変速位置に確実に入れて下さい。

⚠注意

・変速操作が不十分な場合、ギヤ抜けの恐れがあります。操作がやりにくい場合には、無理に入れずに主クラッチレバーを**「入」**方向へ少し動かしてから再度操作を繰り返して下さい。



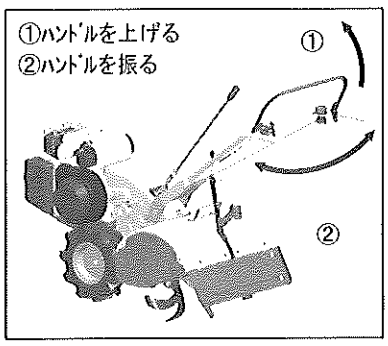
③主クラッチレバーの安全ロックレバーを左図の矢印の方向へ押しロックを解除します。



④安全ロックレバーを押しながら主クラッチレバーをハンドルと一緒に握ると走行を開始します。

⚠注意

「移動」の際の走行速度が比較的速いため、変速レバーを「移動」に入れた際は主クラッチレバーを一気に握らず、適切な歩行速度になるように徐々に握り具合を調節して下さい。

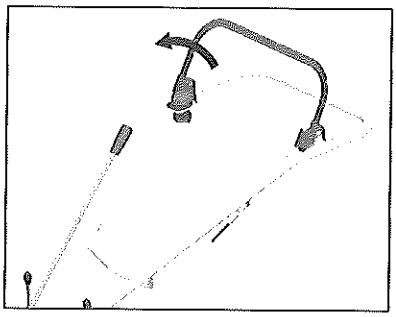


■旋回のしかた

④旋回は、ハンドルを少し持ち上げてロータリ部を地面より少し浮かせ、旋回方向と反対方向へハンドルを押すように振り行って下さい。

⚠警告

変速レバーを**「作業」**位置にして旋回しないで下さい。
ロータリが回転しているので危険です。

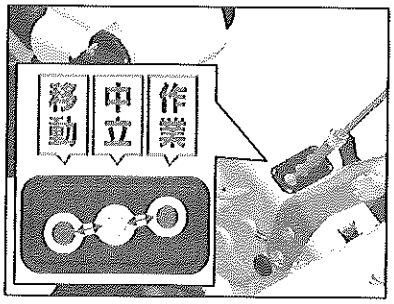


■変速のしかた

①主クラッチレバーから手を放し、本機を停止させて下さい。

⚠注意

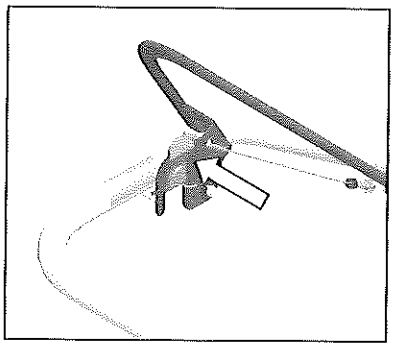
・走行しながらの変速操作は危険なばかりでなく、本機にも悪影響を与えます。



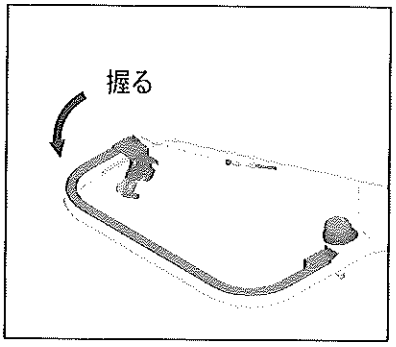
②変速レバーを操作し、所要の変速位置に確実に変速して下さい。

⚠注意

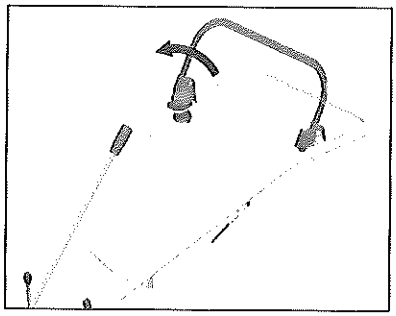
・移動のみの場合は変速レバーを**「移動」**位置に入れて下さい
「作業」位置はロータリが回転し危険です。



③主クラッチレバーの安全ロックレバーを左図の矢印の方向へ押しロックを解除します。

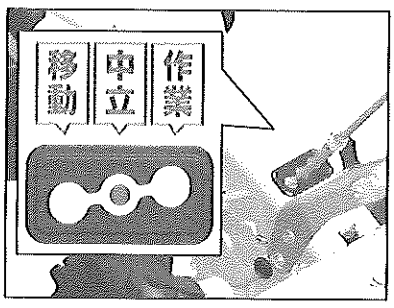


④安全ロックレバーを押しながら主クラッチレバーをハンドルと一緒に握ると再発進して下さい。



■停止（駐車）のしかた

①主クラッチレバーから手を離し、本機を停止させて下さい。



②変速レバーを**「中立」**位置にし、本機を離れる場合には必ずエンジンを停止して下さい。

〈10 頁…「エンジン停止のしかた」参照〉

⚠注意

・本機は平坦で、周辺に障害となる物がない広い場所に駐車して下さい。

・本機を離れるときには、必ずエンジンを停止して下さい。

自動車への積み降ろし

⚠警告

・本機を運搬する場合は、万一の場合に備え、必ずカセットボンベを取り外した状態で運搬して下さい。
・運搬に使用する自動車は、搭載スペースが充分ある車種（トラック、ワゴン等）を使用して下さい。＊ハンドルを折りたたむと一部の普通乗用車に搭載可能です。但し搭載できない車種もありますので、事前に荷室のスペースを確認して下さい。
・自動車への積み降ろしは、平坦で安定した場所を選んで下さい。
・自動車に積んで移動する時には、変速位置を**「移動」**または**「作業」**とし、荷台の上で動かないよう**「車止め」**を掛けて下さい。更に十分に強度のあるロープで本機を確実に固定すると、なお安全です。

■積み降ろしのしかた

①周囲に危険物のない、平坦な場所を選んで下さい。
②基準にあったブリッジを使用して下さい。
③主クラッチレバーは完全に握りきらず、動き出す位に軽く握って下さい。
④積み込む場合は「移動」、降ろす場合は「中立」位置で行い、その他の位置には入れないで下さい。

●ブリッジを使用して積み降ろす場合
変速レバーが「中立」位置の為、充分注意して下さい。またエンジンは必ず停止して下さい。
●ブリッジを使用しないで積み降ろす場合
ハンドルを折りたたみ、前方は「バンパー」、後方は「運搬ハンドル」を可能な限り２人以上で分担して持ち上げ、充分に注意して作業して下さい。

参考：ブリッジ基準
ブリッジは基準にあった、十分な強度のあるものを使用して下さい。
●長さ…トラック荷台の高さの３．５倍以上あるもの。
● 幅 …本機の車輪幅にあったもの。
●強度…本機重量、及び作業者の体重の総和に十分絶え得るもの。
●スリップしないように表面処理が施してあるもの。

《上手な作業のしかた》

耕うん作業のしかた

⚠警告

●安全のため、作業中はリヤガードを下げた状態にして下さい。
培土板の取り付け、耕うん爪の交換時にのみリヤガードが上がった状態にして下さい。

●らくらくアンカーは必ず取り付けて作業をして下さい。又、摩耗した場合には新品と交換して下さい。守らないとダッシングが発生しやすくなり大変危険です。

●特に土が固い畑では、浅く数回に分けて作業をして下さい。

●ロータリカバー内の草やその他の異物を取り除く場合には、必ずエンジンを停止した後に行って下さい。エンジンが回っている間は、不意にロータリが回りだすことがあり大変危険です。

●主クラッチレバーは必ず手で操作し、その他のヒモや針金等で固定して使用しないで下さい。
非常時に停止操作が遅れ、重大な人身事故を招く恐れがあります。

・作業中はハンドルを軽く支えるだけにし、無理に下に押しつけないで下さい。
本機に無理な力がかかるばかりでなく、場合によっては本機がロータリの回転反力で前方もしくは後方へ飛び出す(ダッシング)恐れがあります。

・ハンドルから手を離すと本機は停止します。緊急の場合にはまず、ハンドルから手を離して本機を停止させて下さい。又は、エンジンスイッチを押してエンジンを緊急停止させて下さい。

・転落や衝突事故を防ぐ為、建物、川や崖、人のいる方向へ向かっての作業は行わないで下さい。

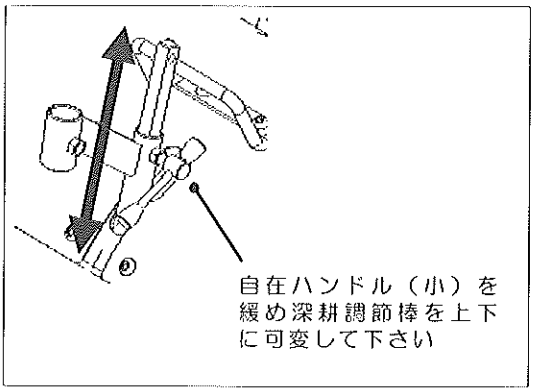
⚠警告

ダッシング…ロータリの回転により本機が前進方向に勢いよく飛び出すこと。
特に土が固い畑や石等の異物の多い畑で起き易い。
※作業中のダッシングを最小限に抑えるため“らくらくアンカー”は必ず取り付けて作業して下さい。

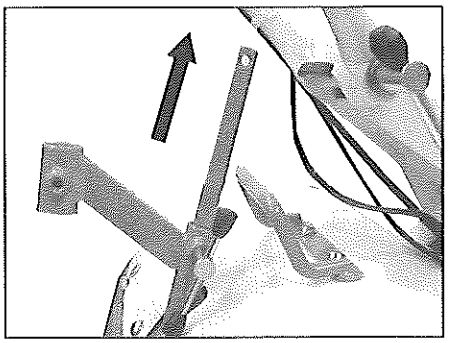
土が固い畑での耕うん作業

・最初から深く耕そうとするとダッシングが起こり易く危険です。
最初は耕す深さを浅めにし、２回目以降徐々に深くし、同じところを数回繰り返し必要な深さまで耕して下さい。

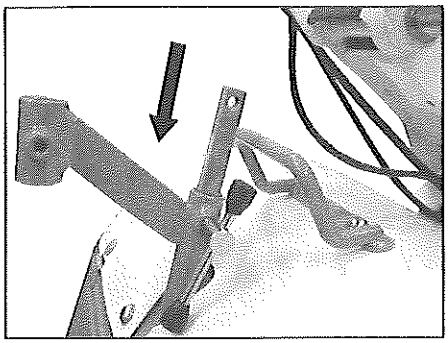
・畑の状態に応じて、ロータリに掛かる負荷をハンドルで加減しながら作業をしてください。



耕うん深さの変えかた



深くなる



浅くなる

耕うん深さの調節は、耕深調節棒の上下によって行います。
調節は任意です。
自在ハンドル（小）を緩め耕深調節棒の固定を解除してから上下させ、所要の位置で再び自在ハンドル（小）をしっかり締めて固定して下さい。

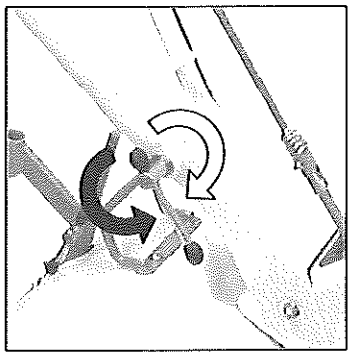
深調節棒を「上」にする…深くなる
耕深調節棒を「下」にする…浅くなる

参考：
「耕深調節棒」の操作が重くなったときにはロータリカバー内の「耕深調節棒」の可動部分に詰まった泥草等の異物を取り除き、エンジンオイルを注油して下さい。

⚠ 警告

・ロータリカバー内の清掃は必ずエンジンを停止した後に行って下さい。エンジンをかけたままの清掃は、急にロータリが回転した場合非常に危険です。
・石等の固い異物が多い畑や、土がしまって固い畑などでの使用は機械の飛び出し(ダッシング)が多く危険なばかりでなく、本機の故障の原因ともなりますので、石等の固い異物は事前に取り除き、特に土がしまって固い畑では浅く数回に分けて作業をして下さい。

作業や体格にあわせたハンドル高さの調整



ハンドル高さは、作業や使う人の体格によって任意に調整することができます。
自在ハンドル（大）を緩め（ 方向に回す）ハンドル固定を解除し、適当な位置で再び締め付け（ 方向に回す）て固定して下さい。

⚠ 警告

・作業中、回転しているロータリカバー内部に手や足が入ると大ケガをする恐れがあります。耕うん作業中は絶対にロータリカバー内には手や足を入れないで下さい。

参考：
・湿った畑での作業では、ロータリカバー内に泥が付着し、タイヤがスリップしたり、エンジンがストップしたりする事があります。このような場合にはエンジンを停止し、付着した泥を取り除いて下さい。

上手な作業の例

■“らくらくアンカー”が正しく取り付けられているか確認して下さい。■

■土が固い畑での作業

土が固い畑を耕うんする場合には、3回位に分けて少しずつ仕上げるつもりで作業をして下さい。

①1回目

・耕深調節棒は浅めにして下さい。
・本機がダッシングするときには、ハンドルを軽く持ち上げ気味にするとスムーズな作業ができます。

②2回目

・耕深調節棒はやや深目にして下さい。
・本機がダッシングするときには、ハンドルを軽く持ち上げ気味にするとスムーズな作業ができます。

③3回目(仕上げ作業)

・耕深調節棒はやや深めにして下さい。

●種を蒔いたり、苗を植えるのに適した仕上がりとなります。

□普通の畑での作業

普通の畑を耕うんする場合には、2回位に分けて仕上げるつもりで作業をして下さい。

①1回目

・耕深調節棒は浅めにして下さい。
・本機がダッシングするときには、ハンドルを軽く持ち上げ気味にするとスムーズな作業ができます。

②2回目(仕上げ作業)

・耕深調節棒はやや深めにして下さい。

●種を蒔いたり、苗を植えるのに適した仕上がりとなります。

⚠注意

・いずれの場合にも“らくらくアンカー”は必ず装着して下さい。
装着しない又は摩耗したままで作業を開始すると、特に土が固い畑の場合にはダッシングが発生しやすく、大変危険です。
・ダッシングを起こす場合には無理をせず、耕深調節棒を浅めにし、数回に分けて作業を行って下さい。
・作業開始時の始業点検時には必ず“らくらくアンカー”の摩耗具合も確認し、必要に応じて新品と交換して下さい。 《23頁…「らくらくアンカー交換の目安」参照》

《長期保管のしかた》

⚠警告

■エンジンを停止して下さい。〈10頁…「エンジン停止のしかた」参照〉

・カセットボンベを抜く時は風通しの良い場所で、くわえタバコや電球むき出し照明等の火気には十分注意し、抜いたカセットボンベの取扱には十分に注意して下さい。

・本機は、固い平坦な場所で水平にして保管して下さい。

・カセットボンベを抜く時、又は本機にカバーをかける時にはエンジンとマフラが十分に冷えているのを確認してからにして下さい。

①本機を使用しないときは、カセットボンベを抜き取って下さい。

・燃料パイプ内のガスを抜く為、燃料コックを「止(OFF)」位置にしたままエンジンを始動して下さい。燃料が無くなってエンジンが止まったらエンジンスイッチを「停止」にして下さい。

②エンジン及び本機の外面はオイルを軽く染み込ませた布で清掃して下さい。

③エンジンオイルを交換して下さい。〈19頁…「エンジンオイルの点検・交換・注油」参照〉

④各部の清掃を十分に行って下さい。〈20頁…「エアクリーナの清掃のしかた」参照〉

特にエンジンのリコイルスタータ・エアクリーナ・マフラ・レギュレータ付近やベルトカバー内に堆積した泥やホコリをエア吹き等できれいに取り除いて下さい。

またサビが出ている箇所はサビを取り除いて防錆塗料を塗布しておいて下さい。

…エンジンに泥やホコリが堆積したまま作業を続けると…

泥等による目詰まりでエンジンが過熱し、焼付や火災の原因にもなりかねません。

参考:

・ロータリカバー内に付着した泥や草屑は、これが乾かない内にホース等で加圧した水で清掃を行うと比較的簡単に洗い落とすことができます。

…このとき、エンジンの電装関係やレギュレータ、エアクリーナ、マフラ排気口に水がかからないようにカバーをかける等して注意して下さい。エンジン始動不良の原因になります。

⑤オイルの注油箇所・グリスの給脂箇所にそれぞれ注油をし、不具合箇所は修理しておいて下さい。

〈18頁…「ミッションオイルの点検・交換・注油」参照〉

〈19頁…「エンジンオイルの点検・交換・注油」参照〉

〈19頁…「各部への注油のしかた」参照〉

⑥屋根のある風通しの良い湿気の少ない場所に本機を水平にして保管して下さい。

⑦本機にカバー等をかけて、ほこりがつかないようにして下さい。保管中は、定期的にタイヤの空気圧を点検し、必要に応じて空気を入れて下さい。

(＊本機に車体カバーは付属していません。)

《各部オイルの点検・交換・注油のしかた》

⚠注意

●当製品は、エンジンオイル・ギヤオイルともに注油済みとなっています。
ご使用前には必ず各部のオイル量を確認して下さい。

・定期的なオイルの交換は、本機を常に最良の状態で使用するために是非必要です。

・各部オイルの点検・交換をする場合には、必ず本機を平坦な広い場所に置き、一旦エンジンを暖機運転した後停止し、本機各部が触っても熱くない程度に冷えるのを(約５分以上)待ってから作業を行って下さい。

⚠注意

…エンジン停止後、すぐにオイルの点検を行うと…

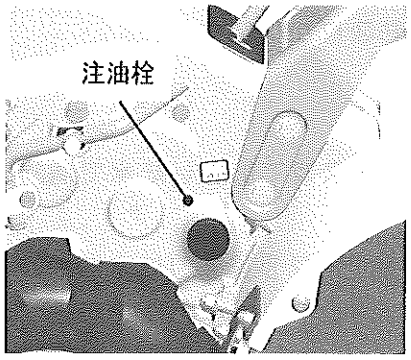
● エンジン本体各部はかなりの高温になっており、火傷の危険があります。

・エンジン停止直後はエンジン各部、ミッション各部にオイルがまだ残っており、正確なオイル量が示されません。

・安全のため、作業が終了するまで点火プラグキャップは点火プラグより外しておいて下さい。

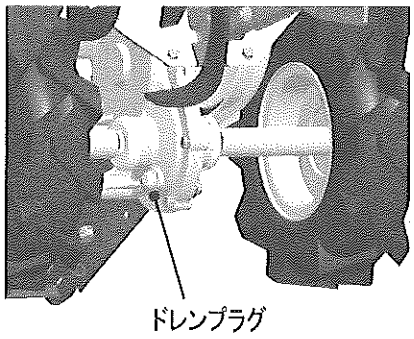
■交換後の廃油はお住まいの自治体の取り決めに従い、適切な処理をして下さい。■

ミッションオイルの点検・交換・注油



◎点検…

点検は、ミッションケース左側面上部の注油栓を外して確認して下さい。注油口を通してミッションオイルが目視で確認できればほぼ規定量のミッションオイルが入っています。



◎交換・注油…

交換は、オイルを受け取る適当な容器を用意し、初回は**２０時間目、それ以降は１００時間**を目安にミッションケース左側面下部のドレンプラグ(排油栓)を外して行って下さい。
注油は、ドレンプラグ(排油栓)を取り付けた後、注油口よりミッションオイル(**＃９０**)を**０．８**㍑入れて下さい。

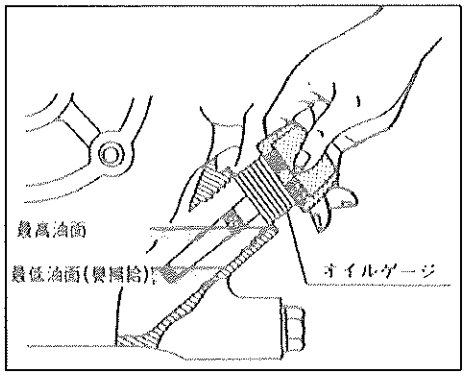
注意

●注油後は、注油栓を脱落のないように最後までしっかりと押し込んで下さい。

●ドレンプラグ排油栓のガスケットが取付け面に接触してから更に３／４回転ねじ込んで下さい。

交換の目安
初回：２０時間目、２回目以降：１００時間毎

エンジンオイルの点検・交換・注油



◎点検…

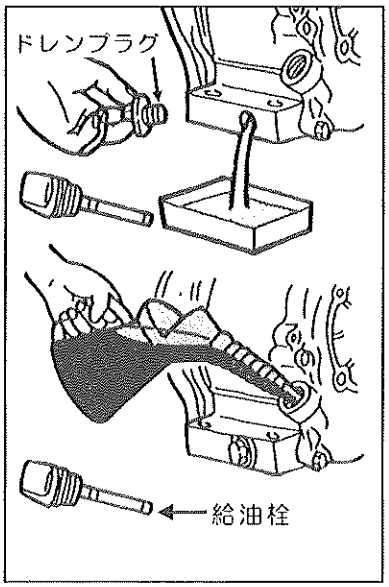
・給油栓についているオイルゲージで、エンジンオイルの質・量を毎日、もしくは**8時間**使用毎に点検して下さい。（オイルゲージはねじ込まずに点検します。）
・常にオイルゲージの上限までエンジンオイルは入れておいて下さい。

◎交換・注油…

参考；

●初回は**5時間**目、それ以降は**25時間**運転毎に交換して下さい。

●**但し、負荷条件の厳しい作業条件や高温環境で連続長時間使用される場合は、上記時間に達する前、早めの交換（約半分の時間）をおすすめします。**



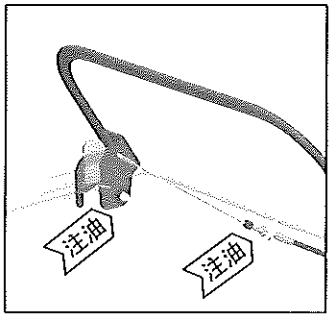
①オイルを受け取る適当な容器を用意し、オイル給油栓を外した後、工具を使ってドレンプラグ(排油栓)を外して下さい。（ドレンプラグの位置はエンジンにより異なります。）
②抜き終わったら元の通りにドレンプラグをしっかりと締め付けて下さい。
③９頁を参照しながらエンジンオイルを注油して下さい。
〈エンジンオイル量は０．４㍑が適量です〉
④エンジンオイル注油後、オイルがにじみ出ないよう、給油栓はしっかりと締め付けておいて下さい。

交換の目安
初回：５時間目、２回目以降：２５時間毎

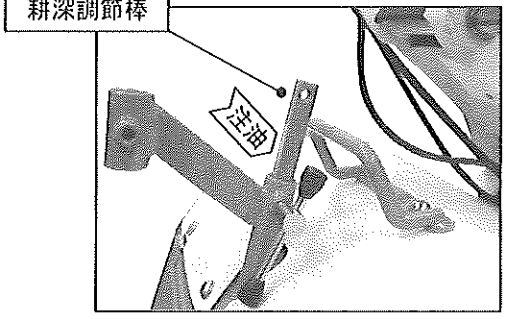
各部への注油のしかた

●使用毎にエンジンオイル**(#３０)**を操作しながら注油して下さい。
注油を怠ると、油切れにより操作が重くなり、破損する恐れもあります。

主クラッチワイヤ・レバー支点



耕深調節棒



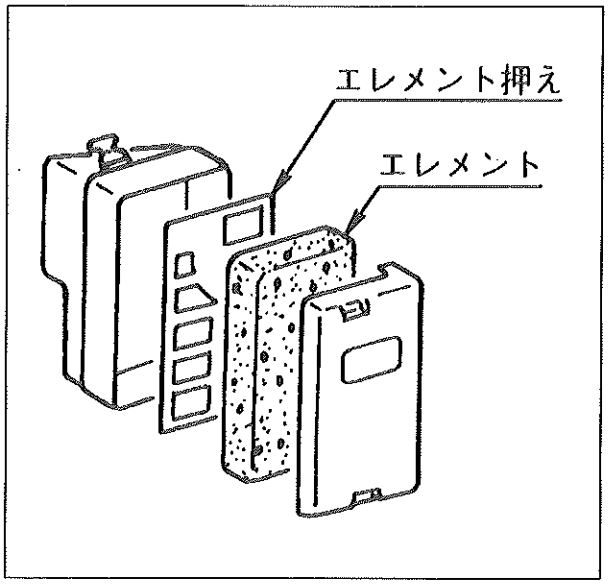
《各部の点検・整備・調整のしかた》

エアクリーナの清掃のしかた

⚠警告

●エアクリーナ・リコイルスタータが草屑等で目詰まりを起こしたまま作業を続けると、出力不足や燃料消費が多くなるばかりでなく、排ガス温度が上昇することにより燃料への引火火災の原因ともなり大変危険です。必ず定期的に点検し清掃して下さい。

●エアクリーナを外したままエンジンを始動させないで下さい。
ゴミやほこりをエンジン内部へ吸い込み、エンジン不調や異常摩耗の原因となります。



①カバーを取外し、ホコリやゴミを気化器側へ入れないように注意深くエレメントを取り出して下さい。

②エレメントは、中性洗剤または白灯油で洗浄後よく絞り乾燥させて下さい。
その後、**新しいエンジンオイル(ＳＡＥ１０Ｗ－３０相当)に浸し、固く絞って余分なオイルを振り落としておいて下さい。(オイルを染み込ませていないと防塵効果が著しく低下します。)**

③ケース内部の汚れをウエス等でふき取り、元のとおりに組み付けて下さい。

参考；

・洗浄時、エレメントを強く引っ張ったりもんだりしないで下さい。エレメントが破れ使用できなくなります。

…エアクリーナの清掃、交換時期について…

	清掃	交換
エレメント …	２５時間毎	１００時間毎

・チリやホコリの多い作業環境では、頻繁(約半分の時間毎)に清掃するように心掛けて下さい。

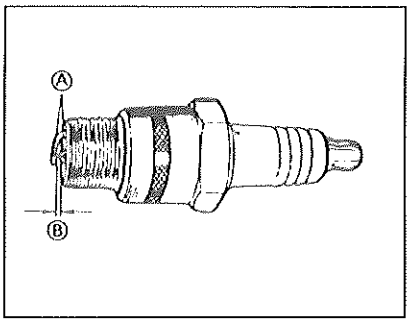
点火プラグの点検・調整のしかた

⚠ 警告

●電極やターミナルの磨耗、ガイシに亀裂がある場合は新品と交換して下さい。

●スパークプラグの火花を確認する発火テストは熟練者以外の人は禁止、お買い上げ頂いた販売店に依頼して下さい。

●シリンダのプラグ孔付近での発火テストは禁止です。また燃料がこぼれたり、燃えやすいガスがある場所でも発火テストは禁止です。エンジン内に残った燃料やこぼれた燃料に引火する恐れが有ります。



①プラグレンチで点火プラグを外し、電極部分Ⓐにカーボンが付着していたらワイヤブラシでこれを除去し、湿りがあれば拭き取って下さい。

②中央陶器部にヒビ割れ、また電極部分に消耗が認められた場合には点火プラグを新品と交換して下さい。

③点火プラグの電極隙間Ⓑを 0.7～0.8mmに調整して下さい。

注意

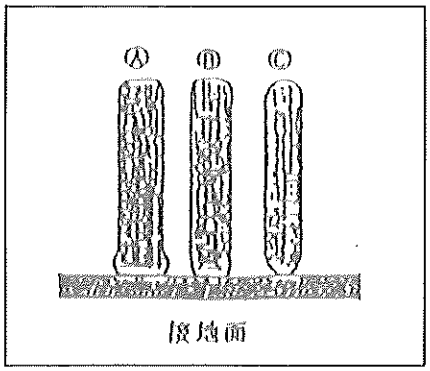
・締め付け時は、初め手で軽くねじ込んでからプラグレンチを使用して下さい。

・初めからプラグレンチで締め込むと、ネジ山を潰しプラグ・エンジン共に使用できなくなる恐れがありますので注意して下さい。　　<点火プラグ基準…NGK BP6HS>

タイヤ空気圧の調整のしかた

●タイヤの空気圧を、１２０．０kPa(１．２Kg/cm²)に調整して下さい。

・左右のタイヤの空気圧が均等になっていないと、作業中ハンドルを取られ、直進できない恐れがあります。



●外観から判断する目安は左図の通りです。

A：不足　　C：過剰

B：適正

	タイヤサイズ	空気圧kg/cm²
タイヤ	3.25－5	1.2

《そのほかの点検》

①各操作レバーが正しく作動するか確かめて下さい。（毎回始業時）

②本機を少し動かして異常音、異常発熱の有無を調べて下さい。

③各部を十分に馴染ませる為、最初の２～３時間は無理な作業はさけて下さい。

④作業後の手入れ、及び定期的な点検も忘れずに行って下さい。

〈26頁…「定期自主点検表」参照〉

⑤各部のボルト・ナット・ピン類に緩み、脱落がないか確認して下さい。

⑥本機全体を見回し、各部にオイルの漏れがないか点検して下さい。

●もしオイル漏れが確認できた場合には、お買い上げ頂いた販売店又は当社へご相談下さい。

●オイル漏れの状態で使い続けると危険なばかりか、本機の破損にもつながります。

スロットルワイヤ調整のしかた

⚠注意

・ワイヤを調整する前には必ず本機を平坦な広い場所に置き、調整はエンジンを停止して行って下さい。

・ワイヤが適切に調整してあるかエンジン始動前に必ず確認して下さい。
ワイヤ調整が適切でない場合、主クラッチレバーを握っても本機が動かない場合があります。
また主クラッチレバーから手を放しても本機が停止しない場合があります。

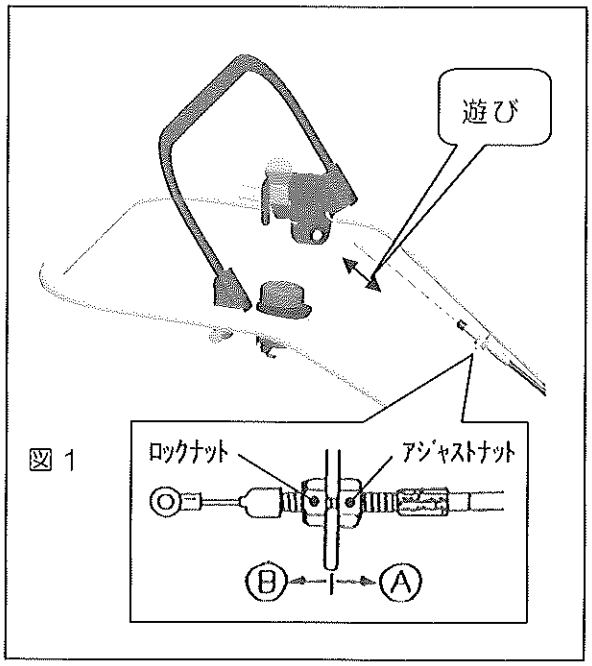


図１

■ワイヤ調整

図１を参考にワイヤのアジャストナットで調整をして下さい。

□ 主クラッチレバーから手を放しても本機が停止しない場合。
…アジャストナットをⒶの方向へ回し、バネがかかっている穴の中で遊びがあるように、張り具合を調整して下さい。

□主クラッチレバーを握っても動かない場合。
…アジャストナットをⒷの方向へ回し、主クラッチレバーを握ったときにバネが少し伸びるように張り具合を調整して下さい。

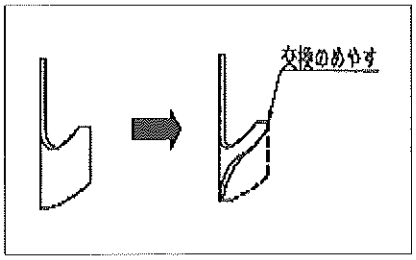
■　調整後はロックナットを確実に締め付けておいて下さい。

耕うん爪の点検と交換のしかた

⚠ 警告

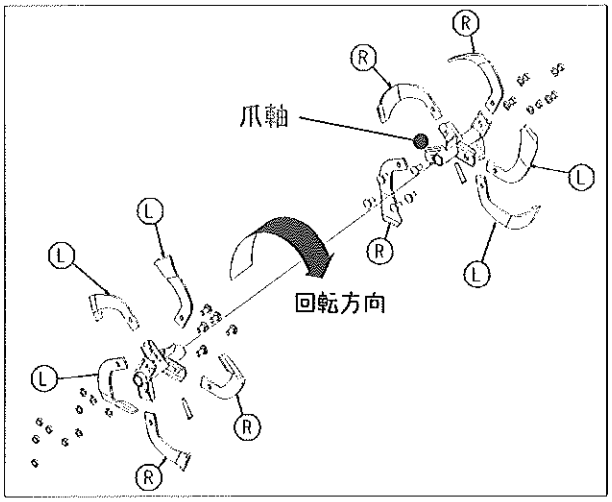
耕うん爪の点検及び交換は、必ず本機を平坦な広い場所に置いてエンジンを停止し、点火プラグキャップを外した後十分安全を確認して行って下さい。

■ 耕うん爪の点検



耕うん爪は始業前に必ず損傷・曲がり及び摩耗を点検して下さい。又、爪取付部のガタがないかも点検し、もしゆるみがあれば増し締めをして下さい。

■ 耕うん爪の交換と配列

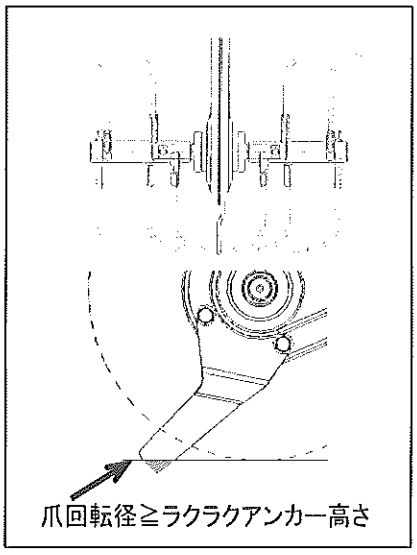


上図のように耕うん爪が磨耗した場合、新品と交換する事をお薦め致します。耕うん爪の交換は同じ向きの爪を一本ずつ交換していって下さい。
もし、途中で取り付け方法が判らなくなった場合、左図を参考に正しく取り付けて下さい。また、耕うん爪には曲り方向によってⓁ、Ⓡの区別があります。回転方向に注意して取り付けて下さい。

参考：爪軸は脱着可能です。耕うん爪交換時は、側板を取り外し、爪軸を外してから作業すると容易になります。

らくらくアンカー交換の目安

●らくらくアンカーが下図のようになったら交換してください。



交換は同じ位置に同じ向きに取り付けて下さい。
らくらくアンカーがロータリの回転径より短くなったら、もしくは頻繁にダッシングするようになったら交換時期です。

⚠ 警告

摩耗したらくらくアンカーをそのまま使用すると作業中のダッシングにより本機が前方向へ暴走し衝突、転落の危険があります。

《消耗品明細》

No.	部　品　名	部　品　番　号	個数/台	備　　考
1.	ベルト	89-6122-002803	1	LA28-SG1000
2.	らくらくアンカー	0019-60700	1	
3.	耕うん爪　L	80-1310-821-00	5	刻印 AR50L
4.	耕うん爪　R	80-1310-822-00	5	刻印 AR50R
5.	爪取付ボルト	85-1321-836-00	10	M10×20
6.	小型六角ナット	89-1611-100042	10	M10
7.	バネ座金	89-1750-100002	10	Φ10
8.	スロットルワイヤ	0021-81110	1	
9.	注意マーク	0031-71800	1	
10.	操作方法マーク	0021-70600	1	ハンドル位置…
11.	エンジン始動停止マーク	0042-74500	1	エンジン始動方法

《工具袋・同梱品明細》

No.	部　品　名	規格・寸法	個数	備　　考
1.	取扱説明書		1	
2.	品質保証書		1	
3.	エンジン工具	エンジン付属	1	
4.	両口スパナ	12×10	1	
5.	両口スパナ	17×14	1	
6.	六角レンチ	5	1	

《仕　様》（参考数値）

名　　称		管理機
型　　式		ＫＲ４１Ｇ
全長×全幅×全高(㎜)		1,150×465×1140（ハンドル収納時 1,020×465×490）
重　量（kg）		４２
タイヤサイズ		3.25-5（φ280）
ハンドル上下		上下菊座調節式
主クラッチ方式		遠心クラッチ式
操向装置		—
ベルト（本）		ＬＡ２８-ＳＧ１０００×１
ロータリ回転数(rpm)		１３６
速度(Km/h)	前進	①０.５１（作業）　②３.５４（移動）
作業幅（mm）		４００
爪　　数（本）		ナタ爪 Ｌ５本 Ｒ５本 （計１０本）
エンジン	名　称	三菱
	型　式	ＧＭ８２ＰＮガス
	排気量（cc）	８０.７
	潤滑油量（㍑）	０.４
	最大出力(PS/RPM)	２.２／３６００
	始動方式	リコイルスタータ
	点火プラグ	ＢＰ６ＨＳ
	指定燃料	岩谷産業㈱イワタニカセットボンベ　容量２５０ｇ

※本仕様は予告なく変更する事があります。

《定期自主点検表》

★点検や整備を怠ると事故の原因となる事があります。正常な機能を発揮させ、いつも安全な状態であるようにこの「定期自主点検表」を参考に点検を行って下さい。

★年次点検は１年に１回、月次点検は１ヶ月に１回、始業点検は作業を開始する前に毎回点検を行うようにして下さい。

項目		点検内容		点検実施時期 始業	月次	年次
原動機	本体	①かかり具合、異音	始動の際、容易に起動するか。	○	○	○
		②回転数と加速の状態	回転速度を徐々に上げ、正常に滑らかに回転するか。	○	○	○
		③排気の状態及びガス漏れ	排気色、排気臭及び排気音は正常か。	○	○	○
		④エアクリーナの損傷、ゆるみ、汚れ	損傷なく、取付部にゆるみ、著しい汚れはないか。		○	○
		⑤シリンダヘッドと各マニホルド締付部のゆるみ	ガス漏れ、亀裂、著しい腐食はないか。 ＊（正常締付トルクでゆるみはないか）			○
		＊⑥弁すきま	（正規の隙間であるか）			○
		＊⑦圧縮圧力	（正規の圧縮圧力であるか）			○
		⑧エンジンベースの亀裂、変形、ボルト・ナットのゆるみ。	エンジンベースに亀裂、変形はないか。 ボルト・ナットにゆるみはないか。	○	○	○
	潤滑装置	①油量、汚れ。	オイルの量は適切か、オイルに汚れ、水・金属等の混入はないか。	○	○	○
		②油漏れ。	オイルシール、ガスケット部に油漏れはないか。	○	○	○
	電気装置	①電気配線の接続部のゆるみ、損傷。	ハーネス接続は適切か、又ゆるみ、損傷はないか。		○	○
	清浄装置	①エアクリーナのエレメントの汚れ	エアクリーナのエレメントに汚れはないか。	○	○	○
		②エアクリーナのエレメントの破損。	エアクリーナのエレメントに破れ、スリ切れはないか。	○	○	○
	冷却系統	①リコイルカバーへの草屑等の目詰まり。	リコイルカバーが草屑等で目詰まりしていないか。	○	○	○
		②マフラへの草屑等の堆積。	マフラ周辺に草屑が堆積していないか。	○	○	○
伝達装置	＊ベルト	＊①ゆるみ。	（ベルトの張り具合は適切か。）	○	○	○
		＊②損傷、汚れ。	（亀裂、損傷、著しい汚れはないか。）		○	○
	ミッション	①異音、異常発熱及び作動。	作動に異常はないか、又、異音、異常発熱はないか。		○	○
		②油量、汚れ。	オイルの量は適切か、又、著しい汚れはないか。			○
		③油漏れ。	オイルシール、パッキン部に油漏れはないか。	○	○	○
車体	車体	①亀裂、変形及び取付ボルト・ナットのゆるみ。	フレームの亀裂、変形、ボルト・ナットのゆるみ、脱落はないか。		○	○
	カバー	②亀裂、変形、腐食。	亀裂、変形、腐食はないか。			○
	レバー及びワイヤ	①レバー及びワイヤの損傷、ゆるみ、ガタ	作動及び取付状態、著しい損傷及びゆるみ、ガタ、脱落はないか。	○	○	○
走行装置	タイヤ(ホイル)	①空気圧及び溝の深さ。	基準値内であること。	○	○	○
		②亀裂、損傷及び偏摩耗。	亀裂、損傷及び偏摩耗はないか。	○	○	○
		③金属片、石その他の異物の噛み込み。	異物の噛み込みはないか。	○	○	○
		④ボルト・ナットのゆるみ、脱落。	ボルト・ナットのゆるみ、脱落はないか。	○	○	○
		⑤ガタ、異音。	取付部に異音、ガタはないか。		○	○
	表示マーク	①損傷。	警告ラベル及び銘板が損傷なく取り付けられているか。		○	○

※　＊印の点検についてはお買い上げ頂いた販売店又は当社にご相談下さい。最寄りのアフターサービス店をご紹介致します。なおアフターサービス店での点検は有料となります。

《自己診断表》

もし次のような現象が発生した場合には、取扱説明書を参考にして適切な処置をして下さい。

現　　象	原　　因	処　　置
耕し残し（残耕）がある。	耕うん爪の摩耗。	耕うん爪を交換する (耕うん爪交換時は全数交換すること)
	耕うん爪の取り付け方が間違っている。	耕うん爪を正しく取り付ける。
ダッシングする。	作業抵抗が大きすぎる。	耕深棒を調節し、作業深さを浅くする。
	畑の土が固い。	2回以上に分けて作業する。
	らくらくアンカーが磨耗している。	らくらくアンカーを交換する。
平面耕ができない。	耕うん爪の取り付け方が間違っている。	耕うん爪を正しく取り付ける。
ベルトがスリップする。	ロータリカバー内に異物が詰まっている。	ロータリカバー内を清掃する。
	畑の土が湿っている。	畑の土が乾くのを待って作業を再開する。
	ベルトの摩耗。	＊ベルトを交換する。
タイヤがスリップする。	作業抵抗が大きすぎる。	作業深さを浅くする。
	ロータリカバー内に異物が詰まっている。	ロータリカバー内を清掃する。
	畑の土が湿っている。	畑の土が乾くのを待って作業を再開する。
耕うん時エンジンがうなるばかりで作業ができない。	エンジン回転が低い。	主クラッチレバーを握り、エンジン回転を上げる。
耕深調節棒が操作不能	耕深調整棒に泥や草が詰まっている。 または錆付いている。	泥や草屑等の異物を取り除く。 注油し錆を落とす。

※以上の点検をしても不具合点がわからない場合、また＊印の処置についてはお買い上げ頂いた販売店又は当社にご相談下さい。最寄りのアフターサービス店をご紹介致します。なおアフターサービス店での点検・修理等は有料となます。

《エンジンの不調とその処理方法》

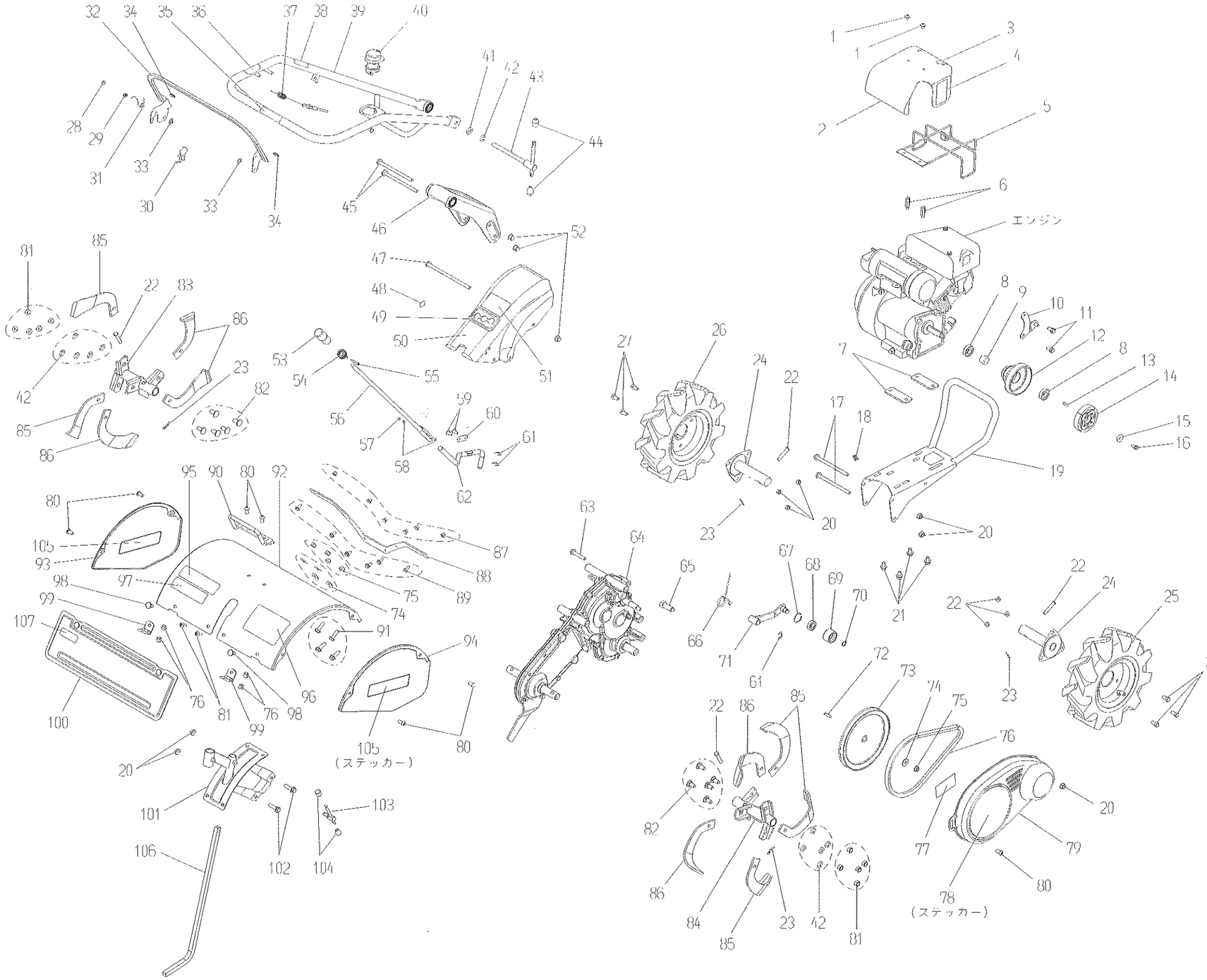
もしエンジンの調子が悪い場合があれば、次の表により診断し、適切な処置をして下さい。

現　　象	原　　因	処　　置
始動困難な場合 （始動しない場合）	エンジンスイッチが「停止」位置である。	エンジンスイッチを「運転」位置にする。
	燃料が流れない。	カセットボンベの向き等が正しくセットされているかを確認する。また燃料コックが開いているかを確認する。
	燃料送油系統に、空気や水が混入している。	異物を取り除き、締付バンドを点検し、損傷があれば新品と交換する。
	寒冷時にオイルの粘度が高く、エンジンの回転が重い。	気温によってオイルを使い分けする。
	点火コイル、又はユニットの不良。	＊点火コイル、又はユニットを交換する。
	外気温またはカセットボンベの温度が低すぎる。	外気温またはカセットボンベの温度が上がるのを待つ。
	点火プラグの不調。	点火プラグ電極の汚れ・隙間を点検し、清掃調整する。 新しい点火プラグと交換する。
出力不足の場合	燃料不足。	カセットボンベを交換する。
	エアクリーナの目詰まり。	エレメントを清掃する。
	燃料の質が悪い。	良質の燃料と交換する。
	冷却系統が目詰まりをしている。	リコイルスタータ周辺を清掃する。
突然停止した場合	燃料不足。	カセットボンベを交換する。
	燃料コックが閉じている。	燃料コックを開く。
排気色が異常に黒い場合	燃料の質が悪い。	良質な燃料と交換する。
	エンジンオイルを入れすぎ。	適正なオイル量にする。
マフラから黒煙が出て出力が低下した場合	エアクリーナのエレメント目詰まり。	エレメントを清掃する。
マフラから青白煙が出た場合	エンジンオイルが入れすぎ。	適正なオイル量にする。
	シリンダ・ピストンリングの摩耗。	＊リングを交換する。
エンジン回転が安定しない（上昇しない）	暖機運転が不十分。	エンジンの回転数が安定するまで暖機運転を行う。
	燃料の質が悪い。	良質な燃料と交換する。
しばらくするとエンストする。	点火プラグの不良。	点火プラグを交換する。
	暖機運転が不十分。	エンジンの回転数が安定するまで暖機運転を行う。
排気に刺激臭がある。	燃料の質が悪い。	良質な燃料と交換する。

※＊印の処置についてはお買い上げ頂いた販売店又は当社にご相談下さい。最寄りのアフターサービス店をご紹介致します。なおアフターサービス店での点検・修理等は有料となります。

※不具合点がわからない場合は、お買い上げ頂いた販売店又は当社にご相談下さい。

KR41G部品表



見出番号	部品番号	部品名	小売価格（税込）
1	89-1159-060108	トラス小ネジ M6×10 黒メッキ	31
2	0021-21300	ポンペカバー	9135
3	0021-80400	マフラー高温注意マーク	315
4	0021-80300	ポンペセットマーク	788
5	0021-21400	マフラーガードCMP	6720
6	0254-62300	リコイル取付ボルト	777
7	0021-70700	防振ゴム	252
8	89-3115-060024	ベアリング 6002 2RS	819
9	0021-41600	エンジンプーリーカラー	525
10	0021-41700	ベルトカバー取付CMP	1050
11	89-1135-080162	小形六角ボルト(SW) M8×16	47
12	0021-41100	エンジンプーリー	13335
13	89-2152-050160	キー 両角)5X16	121
14	エンジン部品	遠心クラッチ	-
15	83-1482-311-00	座金 8.5×22×3.2	420
16	89-1135-060182	六角ボルト(SW)(7T) M6×16	28
17	89-1253-081202	座付小形六角ボルト(8T) M8×120	420
18	80-1490-947-00	ロッドホルダー	210
19	0021-20110	エンジンベースCMP	7245
20	89-1631-080042	座付小形六角ナットM8	34
21	89-1236-080162	小形六角ボルト(7T)(PW,SW) M8×16	65
22	0009-70300	平頭ピン 8×42×37	179
23	89-2131-080002	スナップピン 8	25
24	0021-30100	ホイルボスCMP	2835
25	0009-30200	3.25-5 タイヤAssy 右	9555
26	80-1515-411-00	3.25-5 タイヤAssy左	9555
27	89-1211-080162	小形六角ボルト M8×16	40
28	89-1551-060002	Uナット M6	87
29	0254-10600	ロックバネ	777
30	0254-10500	ロックレバーCMP	1470
31	0021-11300	クラッチレバー戻しバネ	473
32	0021-11200	クラッチレバーCMP	3360
33	83-1020-177-00	プッシュナット 8	36
34	0021-71500	溝ゴム 15L (3.8用)	121
35	0021-81600	移動警告マーク	137
36	0021-81700	クラッチラベル	105
37	0021-81110	スロットルワイヤー	1103
38	80-1260-907-00	SF50主クラッチマーク	189
39	0021-11100	ハンドルCMP	10185
40	0028-70300	プッシュスイッチAssy	3675
41	89-1714-100002	平座金 並丸) 10	15
42	89-1750-100002	ばね座金 10	15
43	0021-70100	自在ハンドル (ジャッキボルト) M10×125	2625
44	83-1260-423-00	握りゴム 8	189
45	89-1253-081253	座付小形六角ボルト(8T) M8×125	557
46	0021-10200	ハンドル取付CMP	10080
47	89-1253-081602	座付小形六角ボルト(8T) M8×160	767
48	83-1712-915-00	油量マーク 0.8	82
49	0021-71200	ボンネットグロメット	819
50	0021-10400	ボンネットCMP	5880
51	0021-81200	変速マーク	536
52	89-1581-080042	フランジ小形袋ナットM8	97
53	80-1417-255-00	握りゴム 10 (赤)	420
54	0023-10700	チェンジレバー戻しばね	809
55	89-1425-040252	六角穴付ボルト M4×25	36
56	0021-10800	変速レバーアームCMP	1785
57	89-1551-040002	Uナット M4	91
58	89-1712-040002	平座金 みがき丸) 4	6
59	83-1020-148-00	六角タップタイト M6×14	48
60	0019-10700	変速レバー押え板	305
61	89-2521-090100	日形止め輪 10	32
62	0021-10700	変速レバー	2100
63	89-1253-080452	座付小形六角ボルト(8T) M8×45	94
64	0021-00000	ミッションケースAssy	93870
65	80-1260-535-00	テンション軸	431
66	0021-41400	テンションバネ	588
67	89-2512-000280	穴用止め輪 28	40
68	89-3115-060014	ベアリング 6001 2RS	777
69	80-1321-523-10	テンションプーリー	819
70	89-2511-000120	軸用止め輪 12	19
71	0021-40100	テンションアームCMP	4305
72	89-2150-050250	平行キー 両丸) 5×25	111
73	80-1260-521-00	ミッションプーリー	4095
74	89-1713-080002	平座金 大型丸) 8	15
75	89-1543-080002	小形六角ナット(SW) M8	48
76	89-6122-002803	薄形 Vベルト A28-SG1000	3045
77	0021-70400	ベルトサイズマーク	94
78	0021-84100	ベルトカバーマーク	1050
79	0021-41500	ベルトカバーアウト	10290
80	89-1433-080162	六角穴付ボタンボルト M8×16	132
81	89-1611-100042	小形六角ナット M10	25
82	85-1321-836-00	角根丸頭ボルト(小形) M10×20	179
83	0019-50100	爪軸L CMP	6405
84	0019-50200	爪軸R CMP	6405
85	80-1310-821-00	ナタ爪 (AR50L)	431
86	80-1310-822-00	ナタ爪 (AR50R)	431
87	89-1581-060042	座付六角袋ナット M6	36
88	0019-60400	ロータリーカバー補強	3570
89	89-1137-060152	六角ボルト(PW) M6×15	25
90	0021-60400	運搬ハンドルCMP	2415
91	89-1253-080252	座付小形六角ボルト M8×25	54
92	0021-60110	ロータリーカバー	9870
93	0019-60200	サイドカバーL CMP	3885
94	0019-60300	サイドカバーR CMP	3885
95	0042-74500	エンジン始動停止マーク	840
96	0021-70600	操作方法マーク	536
97	0031-71800	注意マーク	483
98	89-1390-080162	溶接ボルト M8×16 (メッキ)	59
99	83-1806-757-00	鞍板	441
100	0021-60500	リヤガードCMP	2205
101	0021-60200	ロータリーカバー取付CMP	9030
102	89-1253-080302	座付小形六角ボルト(8T) M8×30	59
103	83-1210-484-00	自在ハンドル M8×20	546
104	83-1310-429-00	握りゴム 6	189
105	0021-73300	サイドカバーマーク	840
106	0021-60300	耕深棒	1628
107	0279-70800	GRラベルC	126
エンジン	9007-0620	三菱GM82PNガス	81900

株式会社やまびこ

〒198-8760 東京都青梅市末広町 1-7-2　Tel 0428-32-6181

やまびこ北海道株式会社
〒004-0041　北海道札幌市厚別区大谷地東 1-2-20　Tel 011-891-2249（代）

やまびこ東北株式会社
〒984-0002　宮城県仙台市若林区卸町東 5-1-50　Tel 022-288-0511（代）

やまびこ東部株式会社
〒198-0025　東京都青梅市末広町 1-7-2　Tel 0428-32-1091（代）

やまびこ中部株式会社
〒452-0031　愛知県清須市西枇杷島町宮前 1-39　Tel 052-502-4111（代）

やまびこ西部株式会社
〒701-0221　岡山県岡山市藤田 566-159　Tel 086-296-5911（代）

やまびこ九州株式会社
〒816-0943　福岡県大野城市白木原 5-3-7　Tel 092-573-5361（代）

やまびこレンテックス株式会社
〒198-0025　東京都青梅市末広町 1-7-2　Tel 0428-32-6777（代）

ご用命の際はお買い上げいただいた販売店へご連絡ください。

(C) 2009 株式会社やまびこ　著作権法により無断での複製、転載などは禁止されております。